

平成27年度第2回（11月）大磯町議会 議会報告会

議 会 報 告 会 資 料

（開催日）

- 1回目 平成27年11月15日（日）国府支所 午前10時～11時30分
2回目 平成27年11月15日（日）保健センター 午後4時～5時30分

資 料

議会議員の紹介 1～3
議会基本条例について 4～5
議会報告事項 平成26年度決算のおもな審査内容 6～10
添付資料 前回報告の結果について 11～13

議会議員の紹介 (議員名簿)

町条例定数 14人
 現議員数 14人
 任期 平成27年7月16日～平成31年7月15日

議長

議席番号	氏名	役職・所属委員会	所属政党	当選回数
16	よしかわ しげお 吉川 重雄 	議長 総務建設常任委員会委員	無所属	4回

副議長

議席番号	氏名	役職・所属委員会	所属政党	当選回数
1	さかた ようこ 坂田 よう子 	副議長 福祉文教常任委員会委員 議会運営委員会委員	無所属	5回

監査委員 (議会選任)

議席番号	氏名	役職・所属委員会	所属政党	当選回数
11	たかはし ひでとし 高橋 英俊 	監査委員 総務建設常任委員会委員 議会だより編集委員会委員	無所属	4回

議会議員名簿

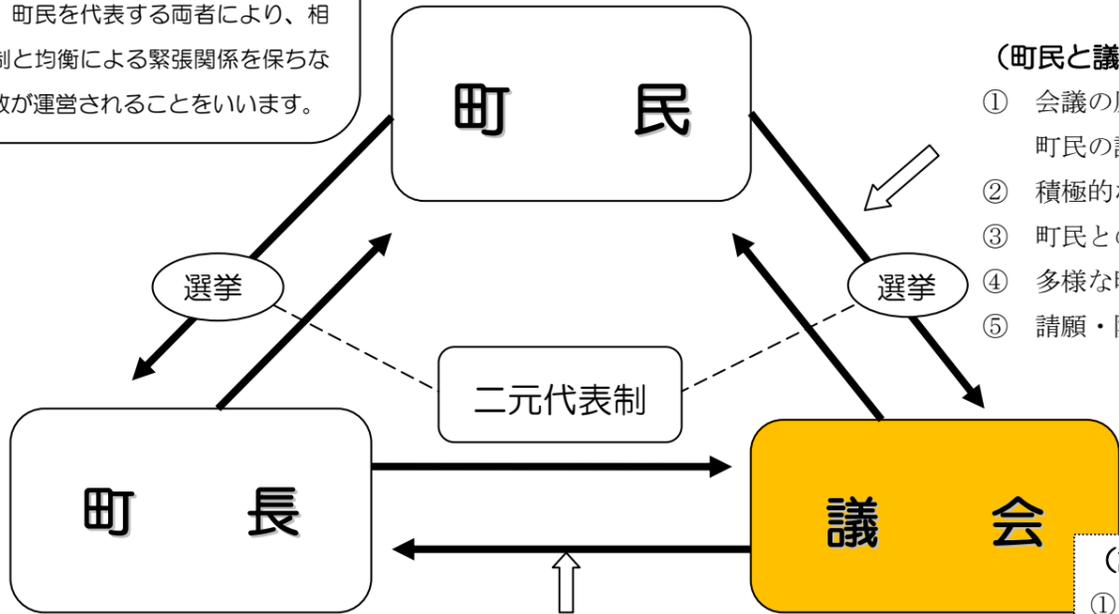
議席 番号	氏名	役職・所属委員会	所属政党	当選 回数
2	たけうち えみこ 竹内 恵美子	 福祉文教常任委員会委員 議会だより編集委員会委員 農業委員会委員	無所属	4回
3	せき たけくに 関 威 國	 福祉文教常任委員会委員 議会運営委員会副委員長	無所属	2回
5	みさわ たつお 三澤 龍 夫	 福祉文教常任委員会副委員長 議会運営委員会委員	無所属	6回
6	おくつ かつこ 奥津 勝 子	 総務建設常任委員会副委員長 議会運営委員会委員長	公明党	4回
7	にのみや かずこ 二宮 加寿子	 福祉文教常任委員会委員長 議会運営委員会委員 議会だより編集委員会委員 大磯町民生委員推薦会委員 (福祉文教常任委員会委員長として委嘱)	公明党	2回
8	せいた ふみお 清田 文 雄	 福祉文教常任委員会委員 議会だより編集委員会副委員長	無所属	1回

議会議員名簿

議席 番号	氏名	役職・所属委員会	所属政党	当選 回数
9	たまむし しほみ 玉虫 志保実 	総務建設常任委員会委員 議会だより編集委員会委員	無所属	1回
10	かたの てつお 片野 哲生 	総務建設常任委員会委員長 議会運営委員会委員 大磯町都市計画審議会委員 (総務建設常任委員会委員長として委嘱)	無所属	2回
12	すずき きょうこ 鈴木 京子 	総務建設常任委員会委員 議会運営委員会委員	日本 共産党	5回
13	わたなべ じゅんこ 渡辺 順子 	総務建設常任委員会委員 議会だより編集委員会委員長 農業委員会委員	無所属	4回
15	しばさき しげる 柴崎 茂 	福祉文教常任委員会委員	無所属	4回

大磯町議会基本条例における町民との協働によるまちづくり

二元代表制とは
現在の地方自治においては、議員と町長をともに町民が選挙で選ぶ制度がとられており、町民を代表する両者により、相互の抑制と均衡による緊張関係を保ちながら町政が運営されることをいいます。



(町民と議会との関係)

- ① 会議の原則公開による町民の議会活動参加の推進
- ② 積極的な情報の公開・提供
- ③ 町民との意見交換のための一般会議の実施
- ④ 多様な町民意見を聴くための議会報告会の開催
- ⑤ 請願・陳情における町民意見を聴く機会の設定



【議会報告会】
議会の活動等をご報告し、町民の皆様からご意見をいただく場として開催 (平成26年中に4回開催)

【一般会議など意見交換の場】

町内で活動している団体等と意見交換 (平成26年中に1回開催)



(議会におけるルール)

- ① 議会で議決をする事項(※)の追加
 - ② 議員同士の討議の充実による議会意思の決定等
 - ③ 各種委員会の設置や参考人・公聴会制度の活用
 - ④ 議会事務局の体制整備等による政策形成支援
 - ⑤ 議会独自の視点による議会広報の充実
 - ⑥ 議員の研修及び政策研究の充実
 - ⑦ 町民の代表者としての議員の政治倫理
- ※条例の制定改廃・予算・決算の認定・契約・財産の取得等

(町長と議会との関係)

- ① 一般質問における論点・争点を明確にするための一問一答方式の実施
- ② 議員質問の論点、争点を確認するための反問権の付与
- ③ 議会で追加した議決する事項の提案
- ④ 重要な政策や議案の議会への説明義務



【定例会・臨時会】
議案の審議・採決など
議場で行い、SCNでテレビ放映している。
(平成26年中に19回開催)



【委員会・協議会】

議案、請願・陳情などの審査、町長からの重要事項の報告など

- 議会運営委員会 ○議員全員協議会
- 総務建設常任委員会・協議会
- 福祉文教常任委員会・協議会
- 議会だより編集委員会
- 予算(決算)特別委員会 など

(平成26年中に委員会を49回・協議会を29回・勉強会を12回開催)

大磯町議会の紹介

- ★議会改革度調査(早稲田大学マニフェスト研究所が全国の都道府県・市町村議会を対象とした調査)で、2014年のランキングは 全国で25位(町村では4位)
- ★現在の議員の任期は 平成27年7月16日から4年間

大磯町議会

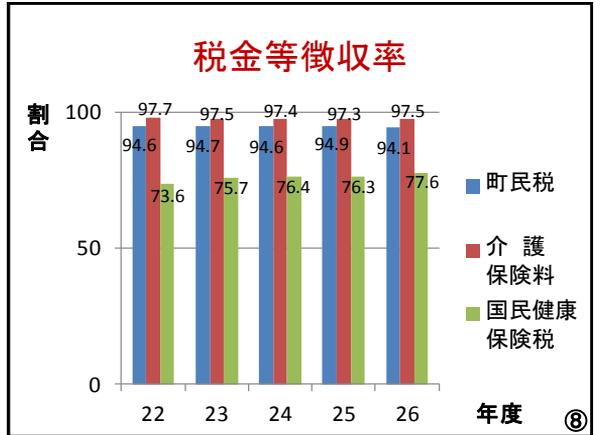
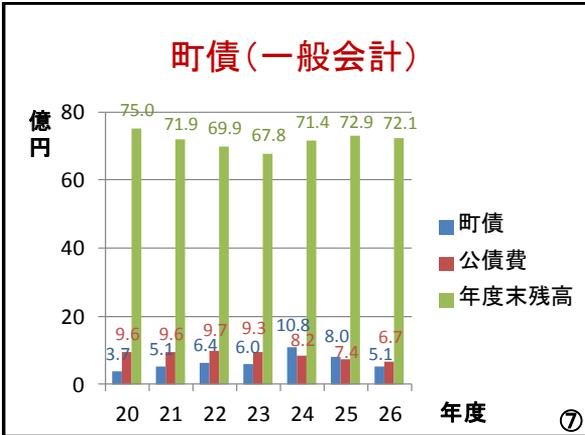


～ 議会の役割 ～

地方分権が進む中で、町の自己責任・自己決定の範囲が拡大し、二元代表制の一翼である議会が担う意思決定機関、行政の監視機関としての役割と責任は、これまで以上に重要となってきています。

このため、大磯町議会では、議会の役割と活動の指針を明らかにし、町民の参加と協働を推進するため、大磯町議会基本条例を平成21年11月1日に施行しました。

この条例は大磯町議会の最高規範であり、条例に定める議会運営のルールを遵守し、実践することによって、町民福祉の向上と持続的で豊かなまちづくりの実現に寄与することを目的としています。



- ## 2. 主な決算審査の内容について
- (議会日よりP6～7から抜粋)
- ①観光事業
 - ②幼稚園預かり保育
 - ③国民健康保険税収入
 - ④ごみ処理
 - ⑤マイナンバー制度導入
 - ⑥大磯港指定管理

観光振興対策費	1,894万円
○観光協会補助金	1,181万円
人件費	
事務局長	188万400円
事務局職員	161万2,800円
案内所運営費	393万8,000円
その他	
○渚の祭典補助金	500万円
○その他	

26年度観光費総額は 1億1,442万円
昨年度より約3,000万円増

観光振興対策費の増 海水浴場 大磯西行祭
 旧島崎藤村邸管理 照ヶ崎プール管理
 鳴立庵管理運営 渚の祭典 など

26年度新たな取り組み 約2,200万円

新たな観光の核づくり 観光トイレ建設
 ポートハウス「てるがさき」整備

高麗の公衆トイレ
 予算1,200万円
 26年度は設計費分
 380万円

照ヶ崎プール管理棟
 ポートハウス「てるがさき」
 1,695万円(県からの交付金)

幼稚園預かり保育



大磯幼稚園 60回 のべ1,345人
 国府幼稚園 62回 のべ 446人
 たかとり幼稚園 62回 のべ 465人
 専任保育士 5人採用 賃金 54万9,500円
 (時給1,000円)

⑬

国民健康保険税収入

平成26年度は9.8%の値上げをしたが、対象者**279人**が**後期高齢者医療へ移行**したため、見込みより**1,100万円の減**となった。

保険給付費は1億円の増約27億円

⑭

生ごみ処理



電動生ごみ処理器(イメージ)

キエーロ (段ボールを使った生ごみ処理器)

⑮

マイナンバー

システム改修費 2,358万3,000円
 (町の経費は**152万6,500円**)

内容

国民年金 住民基本台帳などの宛名システムに関するもの



マイナンバー

⑯

大磯港指定管理



駐車場収入5,500万円
 県へ負担金として1,175万3千円を支払い、
 残りは4,424万7千円。
 (港関連の人件費を含む)
 手数料収入を含め全体の収入は約150万円程度
 の黒字となった。

⑰

事業評価について

事務事業評価とは

- 26年度に町が行った576事業のうち212事業の評価シートが作成され、所管の職員が自己評価を行っている。各常任委員会で1事業を選び、議会独自の評価を行った。

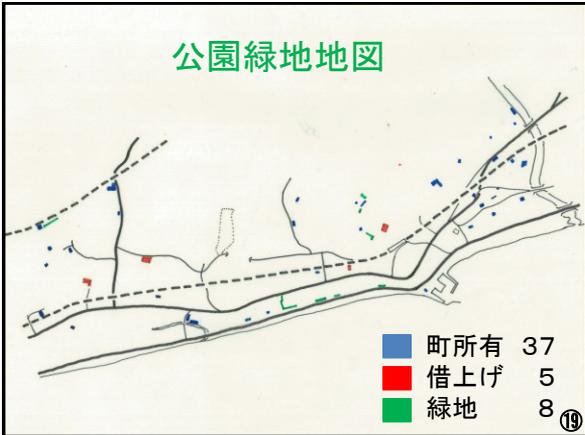
選んだ基準

- 事業費**1,000万円以上**・所管職員が**A**と評価した事業

総務建設常任委員会…公園緑地維持管理事業
 福祉文教常任委員会…

子育て支援総合センター運営事務事業

⑱



委託料の内訳

内 容	委託先	経 費
清掃・除草など(16か所)	老人クラブ連合会	265万円
清掃・除草・剪定 (31か所)	シルバー人材センター	348万円
ごみの収集運搬 (47か所)	シルバー人材センター	117万円
樹木剪定	造園業者	486万円
その他	剪定など業者に委託	200万円
遊具の安全点検	専門業者	28万円

1万円以下四捨五入

⑳



議会の評価

事務事業の方向性	1	拡充する
	2	現状のまま継続する
	③	一部見直しのうえ継続する
	4	抜本的(事務事業の統廃合等)な見直しのうえ継続する
	5	休止・廃止する

㉒



東部つどいの広場



議会の評価

事務事業 の方向性	1	拡充する
	2	現状のまま継続する
	③	一部見直しのうえ継続する
	4	抜本的（事務事業の統廃合等）な 見直しのうえ継続する
	5	休止・廃止する

26

賛成多数で可決

（認定11名・不認定2名）



反対意見

- 火葬料補助金を削減したこと。
- 駅前駐輪場の敷地設定に至る経緯は認められない。
- 国保会計で低所得者や町独自減免の拡充がない。
- 介護保険では特養の空きベット数が多すぎる。
- 財政支出の拡大は危険な兆候。

28

賛成意見

- 町税収入が伸び、増加傾向の借入残高が減った。
- 子育て会議の開催、笑顔かがやきプラン作成で子育て政策が進んだ。
- 合併60周年記念事業で健康面に力を入れた。
- 町債は減少したが、慎重な財政運営を望む。
- 委員会での意見を次年度予算に活かして欲しい。

29

委員会からの要望

- 中学生の被災地訪問事業は予算の科目立てがされていなかった。
- 合併60周年事業は複数課にわたる事業のため、最終的な総事業費が判断できなかった。年度を超えた事業や各課にわたる事業については総事業費を提出すること。

30

平成27年度 第1回 議会報告会 の意見・提言・要望等

番号	分野	内容・テーマ	報告会場	意見・提言・要望等	報告会での回答	町からの回答	回答作成課
1	生活環境	カラス対策	保健センター	イノシシに対する鳥獣対策を行っているとのことだが、カラス対策については、町はどのように取り組んでいくのか。カラスがとて増え困っている。町だけで対策ができないのであれば、県と調整し対策に取り組んでほしい。	町に申し伝える。	カラス被害を抑えていくには、カラスの餌になる生ごみなどを出さないことが重要と考えます。町では、電気を使わないコンポスターや電動生ごみ処理機の普及のほか、臭いの原因のひとつである生ごみの水切りの徹底への協力などを進めていますので、カラス対策にも繋がるものと考えています。また、カラスの増加については、近隣自治体や県とも協力して良い方法を検討して取り組んでいきたいと思ひます。	環境課
2	教育・子育て	放課後子ども総合プラン	保健センター	現在の学童保育は利用者がとても多く満杯に感じる。支援員も手一杯で、子ども同士が喧嘩しても見切れない状態だと思う。放課後子ども総合プランで学童保育と放課後子ども教室の一体化が図られるようだが、現在の状態は改善されるのか。一体化により更に利用者で満杯になるようなら、一体化は止めてほしい。	大磯学童の人数が増えていることは承知している。対策を講じるよう町に申し送る。町は、子ども・子育て関連3法に基づき、「大磯町子ども笑顔かがやきプラン」を作成した。冊子を小学校でも閲覧できるよう、町に依頼する。	学童保育事業については、平成26年度に制定した「大磯町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」に基づき運営を行っています。条例では児童1人当たりの面積はおおむね1.65㎡以上とし、支援の単位はおおむね40人以下で、支援の単位ごとに放課後児童支援員を2名以上配置することと定めています。 今年度は、一つの専用区画において複数グループに分かれての保育している状況や、児童の安全・情緒面を考慮し、大磯小学校内の学年スペースを一定時間使用することで、よりよい保育環境となるよう努めています。 また、放課後子ども総合プランにおける学童保育と放課後子ども教室の一体化は、全ての子どもが放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験や活動を行うことができるようにすることを目的としています。今年度から、保護者の皆さんや学校、町の各団体のご意見を伺いながら、大磯町の実情にあった方策を検討しています。 なお、「大磯町子ども笑顔かがやきプラン」は町ホームページのほか、各学校においても閲覧が可能となっています。	子育て支援課
3	市民活動	自治基本条例	保健センター	自治基本条例町民委員会の位置づけが、町長の附属機関であることを危惧している。自治基本条例のあり方は、自分たちの権利として考えなければならない。駅前駐輪場については、自治基本条例の参画の名のもとに町民委員会が設置され議論が行われたが、町民が出した案を議論すべきであったのに、町が出した案が通ってしまった。今回の見直しの際には、過去の事実を踏まえきちんとしてほしい。	自治基本条例がおかしいのではないかといった意見も議員から出ている。ご意見は町に申し伝える。	自治基本条例は、町民、議会、行政の三者が、それぞれの役割や責任を認識し、町民が主体となったまちづくりに向けて、自治体運営の基本原則を定めています。条例の中にもありますが、見直しの検討にあたり、学識経験者や公募町民を交えた町民委員会を設置し、条例の運用状況についても検証しながら、見直しの検討をまいります。	町民課
4	行財政	行政運営	保健センター	町と社会福祉協議会との間で、話し合いがなされていないと感じることが多々ある。例えば去年、町がボランティア制度をつくった際に社会福祉協議会には話し合いがなかったと聞く。社会福祉協議会との繋がりの無さはいろいろなところで感じる。ひとつの町に対して、いろいろなことを行っていくには、いろいろなところが、いろいろな立場で力を尽くすことが凄いいことだと思う。	町は大磯町社会福祉協議会を大磯町立福祉センターの指定管理者として指定している。我々は、決算特別委員会にて委託状況等を審査しているが、確かに話し合いという部分では細かいところまで議会ではチェックしていない。様々な場面で話し合いを持つよう、町に申し伝える。	町のボランティア制度とは、介護予防事業として実施している「大磯はつらつサポーター事業」のことかと推測しています。新たな介護予防事業として実施することについて、町社会福祉協議会への事前説明を行いました。ボランティア支援と混同されやすい制度であるため、制度開始当初は、社会福祉協議会にお問い合わせが続いたようですが、介護予防事業としての実施に関してはご理解をいただけたものと認識しています。 また、町が事業を行う際に、社会福祉協議会と関係するものについては、円滑に行うことができるよう事前に説明を行っています。協働して行う事業などは、適宜、連絡調整を行っています。 今後も、町社会福祉協議会に委託をしている事業の内容も含め、さらに密に連絡調整を行ってまいります。	福祉課
5	行財政	行政運営	保健センター	大磯オープンガーデンの開催に合わせ、大磯アフタヌーンティーが行われていたが、とても良くできたパンフレットが作られ、いろいろなところに置かれていた。町と大磯町観光協会、大磯ガイドボランティア協会の連携が凄くよくいっていると感じた。	今後も、町産業観光課、大磯町観光協会、大磯ガイドボランティア協会が、話し合いをしっかりといただき、大磯町を皆さんにPRできるよう、町に申し伝える。	今後も、こうした民間団体や町民の方の主体的な活動による事業が円滑に行われるよう、町観光協会や大磯ガイドボランティア協会をはじめとする関連団体との連携を図ってまいります。	産業観光課

平成27年度 第1回 議会報告会 の意見・提言・要望等

番号	分野	内容・テーマ	報告会場	意見・提言・要望等	報告会での回答	町からの回答	回答作成課
6	市民活動	市民活動への支援	保健センター	平成26年度第2回議会報告会の意見・提言・要望等に対する町からの回答で、「市民活動センター整備について検証していく」となっているが、その後進展はあったのか。	町に申し伝える。	他市町村における市民活動センターの運用状況の調査や、現在町で検討している公共施設の再編の検討状況を踏まえ、既存の町施設における開放を検討してまいります。	町民課
7	市民活動	市民活動への支援	保健センター	中学校で学校支援ボランティアを行っている。U字溝の清掃から木の伐採まで自分たちの手で少しずつやれることをやっているが、活動に伴う保険代はPTA会費から負担してもらっている状態だ。町民の手で、学校や地域を整備していく活動も重要なボランティア活動と考える。ボランティア活動に対する保険を考えてほしい。	町に申し伝える。	町民の皆さんにおける各分野のボランティア活動は、協働のまちづくりに欠かすことのできない重要な活動として認識しております。そのため、保険については、活動の安全性や町との役割分担を各事業担当課と協議することのほか、すべてのボランティア活動に適用できる保険制度について、他市町村の事例を参考に研究してまいります。	町民課 政策課
8	市民活動	市民活動への支援	保健センター	大磯町では介護保険施設等でボランティア活動を行った場合にポイントが得られる制度があるようだが、通常のボランティア活動もポイント制になっている自治体がある。例えば中学生がボランティア活動に参加しポイントをもらうという話を聞いたことがある。そのようなことも重要だと考えるが、如何か。	町に申し伝える。	非常に良い取り組みだと認識しています。先進自治体を参考に研究してまいります。	町民課
9	教育・子育て	中学校給食	国府支所	大磯町立中学校給食に関する懇話会の委員に任命され、1年間学校給食について勉強討論した。「中学校給食は自校給食で」と懇話会で結論を出したが、町が出した結論はデリバリー給食とお茶を濁した形になってしまった。町の決定については、決定に至るまでの経過報告が足りないと感じる。給食については、広報紙での周知ではなく、学校に来て、なぜデリバリー給食にしたか説明すべきだ。	町に申し伝える。	大磯町立中学校給食に関する懇話会の際には、大変お世話になりました。教育委員会では、平成25年度に「中学校給食の導入に係る教育委員会検討会」を立ち上げ、中学校給食のあり方について検討を重ね、「中学校給食の方向性」をまとめました。また、これらの検討結果をもとに、平成26年度に入り、保護者説明会の開催、パンフレットの配付などで周知及び意見をお伺いしました。 説明会やパンフレットでお伝えしてきましたが、デリバリー方式としました理由は、「学校給食の主旨を保ちつつ、早期導入できる最も有効、かつ現実として可能な方法」「初期投資額が抑えられるため、他の方式へ転換する場合でも、初期投資が無駄にならず、状況に応じて柔軟な対応が可能」であり、様々な観点から総合的に判断したものです。自校方式については、食育の推進や温かい食事など、給食として理想的な方式と認識していますが、施設整備費・人件費・維持管理費などの財政的課題や建設地の確保、給食開始までに要する期間、学校カリキュラムへの影響などの課題を考慮すると、現段階では実現が難しいと判断しました。 なお、これらの経過等については、町ホームページにも公開していますので、参考にしてください。	学校教育課
10	教育・子育て	教育費	国府支所	子育てにやさしい町、日本一住みたい町にするとは、具体的にどのような町にするのか。我々からすれば答えはわかっている、学校にお金を掛けなくてはいけないと思う。子どもを増やす為には、教育費を増やさないとダメだ。駐輪場に5億円掛かると聞く。吉田邸も4.5億円掛かる。吉田邸をきれいにしたからといって、人口が増えるとは思わない。町はプライオリティを明確に示すべきだ。	町に申し伝える。	町では「観光」「健康」「子育て」「定住」を掲げ、観光で訪れた方が、いきいきと健康な町民の姿や、未来を担う子どもたちを育む環境を肌で感じ、町を選び定住していただく流れを生み出すべく、この4つの柱を複合的に連動させ、各事業を進めています。財政状況が厳しい中、「選択」と「集中」により事業の優先順位を明確にし、「日本一住みたい町おおいそ」の実現に向けて取り組んでまいります。	政策課

平成27年度 第1回 議会報告会 の意見・提言・要望等

番号	分野	内容・テーマ	報告会場	意見・提言・要望等	報告会での回答	町からの回答	回答作成課
11	市民活動	自治基本条例	国府支所	自治基本条例見直しにあたり検討会が開かれるようだが、自治基本条例を本当に活かそうと思うなら、参加してよかったと思われる検討会にしてほしい。参加したが、少しも話を聞いてもらえないといったことをほかの検討会で聞く。まずそれを改めないと、町民がつくる町政など絵空事のように聞こえる。	町に申し伝える。	いただいたご意見は、各種検討会については関係各課に周知してまいります。自治基本条例は、町民、議会、行政の三者が、それぞれの役割や責任を認識し、町民が主体となったまちづくりに向け、自治体運営の基本原則を定めています。条例の中にもありますが、見直しの検討にあたり、学識経験者や公募町民を交えた町民委員会を設置し、条例の運用状況についても検証しながら、見直しの検討をしてまいります。	町民課
12	建設・都市計画	歩道整備	国府支所	平成26年度第2回議会報告会において、月京の上り線バス停（主要地方道相模原・大磯線）は、利用者が多く歩道が狭いため危険な旨を指摘したが、現在の進捗状況はどうなっているのか。	町は道路管理者である県平塚土木事務所に道路拡幅の可能性を確認しており、県の用地があることが確認できたとの報告を受けている。報告の中で、「拡幅にあたり、構造的な部分、工事費用の課題もあるが、地元の意見や意向等を十分に集約した上、県と協議を行っていく必要がある」としている。その後の進捗を確認するとともに、県議会議員にもお願いし、検討していただく。	現在の状況について、道路管理者である平塚土木事務所に確認したところ、工事費用等について、来年度の予算要望に向けて検討しているとのことです。	建設課
13	建設・都市計画	道路管理	国府支所	道路の雨水排水枡に木の葉が積もり、葉っぱで満杯になる場所がある。年に何回かスコップで葉っぱをかき出すが、専用道具でないため効率が悪く。町でスコップを貸し出してもらえないか。	町に申し伝える。	町でも、道路パトロールや町民の方々からの依頼で、道路補修作業員や委託業者により、道路側溝や樹の浚渫・清掃を行っています。町に依頼していただければ対応いたします。	建設課
14	建設・都市計画	道路管理	国府支所	城山トンネル先に、赤錆で穴が開いているグレーチングがある。とても危険に感じる。道路パトロールの際、グレーチングについても関心を持ってチェックしてほしい。	町に申し伝える。	ご指摘のありましたグレーチングも含め、今後も、破損している施設については早期発見に努め、適切、速やかに対応してまいります。	建設課
15	建設・都市計画	マリア道整備	国府支所	大磯運動公園を有効に活用するためには、マリア道の整備が必要だ。マリア道をできるだけ早く整備し、大磯運動公園を使い易くしてほしい。	町に申し伝える。	国府本郷西小磯1号線（マリア道）については、南北方向の重要な幹線道路として、また、広域避難場所に指定しています大磯運動公園への災害時の緊急物資等輸送路にもなり得ることから、道路整備の早期完成を目指し進めています。	建設課
16	教育・子育て	教育費	国府支所	埼玉県のある町は給食費や教材費を無料にし、若い夫婦の定住促進に結びつけていると聞く。この町だけでなく、同じようなことを行っている自治体は多い。小さな子が結婚して大きくなった時に、住みやすい大磯町であってほしいと常に思っている。給食費や教材費を無料にすれば住みやすくなるといった簡単な話ではないと思うが、子ども達が住みやすい町にしてほしい。	町に申し伝える。	子育て世帯がどのような事業やサービスを利用したいと考えているかについて、アンケート調査や卓話集会などを通してご意見を伺い、それを基に平成26年度に「大磯町子ども笑顔かがやきプラン～子育てで選ばれる町！おいそ」を策定しました。子どもや子育て家庭が必要とする事業やサービス、また、経済面への支援なども計画的に実施していくことで、住みやすいまちづくりを推進してまいります。	子育て支援課